



## 地域に留学生がもたらすもの

～高校魅力化の取り組みの一つとして～



小国高校では、令和2年度に内閣府の「高校生の地域留学推進のための高校魅力化支援事業」の採択を受け、令和3年度に高校2年生の1年間留学する「地域みらい留学365」を、令和4年度からは内閣府のデジタル田園都市国家構想交付金を活用して3年間を小国高校で過ごす「白い森留学」を開始し、全国から地域留学生を受け入れてきました。

そして今年度、小国高校で3年間を過ごした白い森留学生在が初めて卒業することとなり、次のステージが見えてきています。

今回は、これまで小国高校と町が協働して取り組んできた高校魅力化や、留学生を受け入れたことによる小国高校生の変化と今後の展望等について紹介します。

### 小国高校の魅力化

山形県立小国高等学校（以下、「小国高校」）は昭和23年の開校以来、本町の高等教育や人材育成を担ってしてきました。

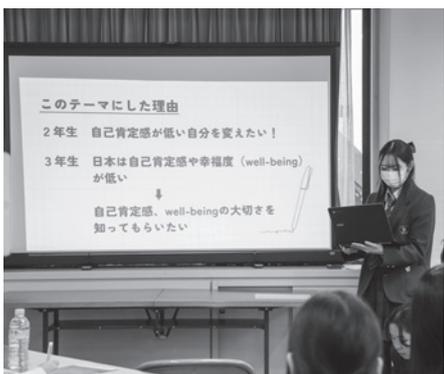
しかし、少子化や進路の多様化による入学者の減少、県の高校再編の流れなど、小国高校を取り巻く環境は厳しさを増しています。

そのような中、小国高校では、保小中高一貫教育の最高学府として、国際教育やICTを活用した情報教育を推進するとともに、高校・地域・町が協力し、高校の魅力を高めるため取り組んできました。

小国町の豊かな地域文化に浸り、地域のかたがたとの対話を通じて、自分の可能性を発見・表現していく白い森未来探究学の実施や、全国の小

規模校に通う生徒たちが交流し、地域や学校について語り合う全国高等学校小規模校サミットの開催などを通じて、高校の魅力向上を進めています。

高校魅力化を推進する中、近隣市町に対して行ってきた生徒募集についても範囲を広げ、留学生の受け入れを検討し、令和2年度に内閣府の「高校生の地域留学推進のための高校魅力化支援事業」の採択を受け、令和3年度に「地域みらい留学365」を、令和4年度からは内閣府の交付金を活用して「白い森留学」を開始しました。



▲白い森未来探究学発表会の様子

### 留学生受け入れによる変化

「地域みらい留学365」は、留学生が地元の高校に在籍したまま、高校2年生の1年間のみ小国高校で過ごす制度で、町内出身の生徒たちとともに学びながら、小国町での生活を体験します。また、「白い森留学」は小国高校に入学し、町内出身の生徒たちと一緒に3年間を過ごすもので、より深く小国の豊かな地域文化に触れ、小国ならではの自然や伝統行事等を体験できます。

「地域みらい留学365」の受け入れから4年、「白い森留学」の受け入れから3年が経過し、小国高校生には様々な変化が生まれています。

町外からの異なる視点を持つ留学生と交流することにより、町内出身の生徒たちが小

国の魅力や価値を再認識し、町に対してポジティブな感情を持てるようになりました。

また、留学生を受け入れたことにより、寮での生活をサポートするハウスマスターやホームステイの受入先のかたなど高校生と日常的に関わる地域のかたが増加しました。それにより、そのかたがたを通じて、地域のイベントや行事に高校生が誘われる機会が増え、地域との交流も広がりました。

このほか、小国高校の活動が活発化することで県内外のメディアに取り上げられる機会も増え、町の認知度向上につながっています。

これまでの留学生受け入れと今後の展望について、小国高校3年生の担任である加藤真央先生にうかがいました。

「生まれ育った環境が異なる生徒たちが3年間一緒に過ごすことは、町内出身の生徒にとっても、留学生にとつて

も苦勞する面があったと思います。互いの違いを認め、受け入れることは容易ではありません。しかし、その違いを楽しめるようになると、学校生活ひいては、今後の人生もより豊かなものになると思います。

この3年間の高校生活の中で自分たちの当たり前を見つめ直し、互いに尊重し合い、違いを楽しんだ経験は社会に出てから生きるものだと思います。

留学生受け入れの課題として、保護者のかたとの連絡・



▲寮では季節のイベントも行われている

### 小国高校での3年間

調整や書類のやりとりをどのようにスムーズに行うかが挙げられます。直接、会って話をする機会が少ないため、伝えたいことが正確に伝わらない場面も出てきます。この点については、町教育委員会とも協力しつつ、改善策を考えていきたいです。

今後の展望としては、留学生が特別な存在ではなく、小国高校の生徒として自然に受け入れられ、多くの小国高校生が地域に飛び出し、様々な人たちと交流し、関わる機会を作っていきたいです」



▲抜穂祭に参加し、稲刈りを体験

白い森留学生の佐藤秀亜さん（3年・東京都出身）は当初、出身地の高校への進学を考えていましたが、白い森留学の存在を知り、新しいことに挑戦したいと思い小国高校に入学しました。より地域と関わることでできるホームステイを選択し、今では第二の実家といえるくらいになじんでいます。

「高校生活では、自然にみんなと仲良くなることができました。小国町で生活し、驚いたこととは、様々な地域行事やイベントに誘ってもらえることです。生まれ育った地域では伝統行事に参加する人は決まっています。あまり参加しませんでした。小国町に来てからは様々なかたに誘っていたので、大宮神社の抜穂祭や地区

のお祭り、さいず焼きなどに参加しました。このように、地域の人たちみんなで伝統行事を守っていく姿がいいなと思いました。

高校卒業後は関東地方の大学に進学しますが、これからも小国町と関わっていききたいと思っています。よさこいサークルのおぐに舞波の一員として芸能まつりで踊りを披露してきたのですが、今年開催される芸能まつりにも参加したいと思っています。また、大学卒業後の進路として、山形県内に就職するのもいいなと考えています」

町内出身の阿久津七香さん（3年）は留学生とともに過ごした高校生活について、「最初は緊張し、留学生とあまり話すことができませんでした。自然が好きといった共通点が多いことを知り、気がつけば気軽に話せるようになっていました。これまで私は積極的に地域

に出ていきませんでした。しかし、留学生たちに誘われて一緒に町を散歩したり、地域のイベントや行事に出たりするようになりました。

また、留学生と過ごすことによつて、町の外の人から見た小国町を知ることができました。今までは小国に対してマイナスイメージを持つこともありましたが、その魅力を再認識し、いいところなんだと思うことができました」と留学生と交流することによる自身の変化を交えながら、お話ししてくれました。

また、飯田晴基さん（3



▲左：阿久津七香さん 右：佐藤秀亜さん

年)の保護者である飯田宏美さんに留学生の受け入れについて、どのような思いを持っていたか、うかがいました。

「小国は都会に比べて遊ぶ場所が少なく、留学生の子どもたちが町での生活を楽しめるのか心配していました。しかし、子どもから留学生を山や川に連れていき、遊びかたを教えた話を聞いたり、一緒に芋煮会やBBQを楽しむ姿を見たりすることで、心配する必要はなかったと感じました」

また、留学生と過ごすことにより感じたお子さんの変化や、留学生との関係についてお聞きすると「小国の子どもたちは山や川などの自然に囲まれていることが当たり前だと思っっています。しかし、留学生が小国の自然を素晴らしい、楽しいと言ってくれることで、この環境で暮らすことが当たり前でなく、幸せなことだと感じてくれるようになった」

りました。

以前、留学生に小国町でやってみたいことを聞いた時、「花火をしたい」と言われきました。都会では、住宅が密集しているなどの理由で、気軽に花火やBBQを楽しむことができないそうです。このように、小国では普通に楽しめることが、他の地域ではできないことがあるということも知ったようです。

留学生の子どもたちとは一緒にテスト勉強をしたり、町外に遊びに行ったりと日々楽しく過ごしているようです。また、自身の出身地に戻って



▲左：飯田晴基さん 右：飯田宏美さん

いった地域みらい留学365の留学生とも交流が続いています。学校祭や小規模校サミットの際に、小国に留学していた子どもたちが遊びに来てくれました。また以前、家族で関東に行った際、子どもが、『地域みらい留学365』に参加した留学生と連絡を取り、会いに行っていました。この関係は高校を卒業した後も続いていくと思います」とお話しいただきました。

### 地域とともに

小国高校では、地域と協働し、高校魅力化に取り組むようになってから、高校生と地域住民の交流による地域の魅力の再認識や新たな価値の発見といった地域づくりの面でも重要な役割を担うようになりました。留学生を受け入れ、小国高校の活動がより活発になったことで、地域との関わ

りが強くなっています。

近年、地域留学を受け入れる高校が全国的に増えており、今後、留学生の確保は難しくなっていくと予想されます。そのような中、高校生を受け入れ、ともに活動してくれる地域のかたがたの存在は、留学生が小国町を選択する要因の一つになるのではないのでしょうか。

町では、今後も小国高校や地域と協働した高校魅力化に取り組むとともに、留学生の受け入れをサポートしながら、地域の活性化を図っていきます。

## 小国高校生の活動発表会を開催します

小国高校生が学校生活の中で取り組んできた活動について発表します。ぜひお越しください。

- 日時 2月27日(木)18時～
- 場所 おぐに開発総合センター集会室
- 問合せ先 教育振興課 (☎62-2141)へ